



社会に期待され信頼される「真に価値」のある  
企業グループを目指してまいります。

代表取締役  
取締役会長

三野 哲治

このたびの東日本大震災でお亡くなりになられた方のご冥福を心からお祈り申し上げますとともに、被災された皆さまとご家族に心からお見舞い申し上げます。

#### 2010年12月期の概況

当期の当社グループを取り巻く環境は、新興国市場を中心としたタイヤ需要の増加に加え、国内では政府の新車購入支援策の効果もあり自動車生産台数が前年を上回ったものの、為替の円高が進んだことや天然ゴムが史上最高値を更新するなど総じて厳しい状況が続きました。

このような情勢のもと、当社グループは、タイヤ販売子会社の

統合・再編、グローバルな最適生産配置など構造改革を進める一方、環境負荷を抑えた低燃費タイヤ「ENASAVE（エナセーブ）」シリーズをはじめとする高付加価値商品の拡販、海外市場における販売増および海外工場の供給能力増強ならびにグループを挙げての生産性改善や固定費削減など、収益力の強化に取り組みました。

この結果、当期の当社グループの業績は、連結売上高が前期比15.3%増の6,045億49百万円、連結営業利益が65.5%増の

475億71百万円、連結当期純利益が前期比135.6%増の214億27百万円と大幅な増収増益となり、金融危機以前の水準まで回復しました。当期の配当につきましては、1株当たり中間配当金8円と期末配当金12円を合わせて、1株当たり年間20円とさせていただきます。

## 社長在任6年間の回顧

2011年3月30日に開催された株主総会での承認を経て、私は社長を退き、会長に就任いたしました。ここで2006年に策定した、2015年を目標年度とする「住友ゴムグループ 長期ビジョン」の進捗状況を中心にこの6年間の事業活動を総括してみます。

事業別に振り返ってみますと、タイヤ事業では、いかにグローバル展開を積極的に進めていくかが課題でした。販売体制では、需要拡大が期待されるロシア、中南米、中近東に新たに販売会社を立ち上げ、北米や欧州ではファルケンブランドを活用して新たな販路拡大に取り組み、売上を伸ばしました。生産体制では、インドネシアおよび中国の既存工場拡大とタイ工場の新設・増強により、成長著しいアジアでの供給力を高めました。また、コスト削減の取り組みにおいては、アジアNo.1のコスト競争力実現を目指す「ABC (Asian Best Cost) プロジェクト」を2006年にスタートさせ、着実に成果を上げております。商品開発では、2008年に石油外天然資源比率を97%にまで高めた「エナセーブ97」を発売したほか、2010年1月より日本でスタートした低燃費タイヤの「ラベリング制度」に対応する商品のラインアップ強化に取り組むなど、環境配慮商品の開発に注力いたしました。

スポーツ事業では、SRIスポーツ(株)による米国クリーブランド社の買収によって、グローバル展開に大きな弾みをつけることができました。

産業品事業では、成長分野への選択と集中を進め、制振材や医療用ゴム栓の拡販を加速しております。

また、長期ビジョンの価値追求のもう一つの柱である「社会的価値」向上の観点からもさまざまな取り組みを推進した結果、生産活動に伴う環境負荷低減や緑化活動などへの積極的な取り組みが評価され、2009年に環境省より「エコ・ファースト企業」としての認定を受けました。

2009年の10月に当社は創業100周年の節目を迎えることができました。そして次の100年へ向けた取り組みもスタートし

ました。技術力の継承と創造としてはタイヤ新技術の開発拠点となる「タイヤテクニカルセンター」を、また、モノづくりの継承と創造では「製造研修センター 白河研修所」を建設し、住友ゴムとしてのタイヤづくりの考え方を次世代に伝承するための研修を行っております。さらに、当社が今後も守り続けていかなければならない価値観と行動原則を後世に継承していくため、「住友ゴムWAY」として明文化いたしました。

長期ビジョンでは、連結売上高8,000億円、営業利益率10%以上などの財務数値目標を掲げておりますが、2008年の原料価格高騰による利益水準の悪化や2009年の世界同時不況による売上高の減少と利益水準の停滞といった危機的状況はあったものの、アジア生産の拡大、国内工場の生産再配置など構造改革を実行するとともに、全社を挙げて増益対策を推進することにより、業界のなかでもいち早く回復軌道に乗り、再び成長への道筋を描くことができたと考えております。

以上振り返ってみますと実に変化の激しい6年間でありましたが、この間、当社グループを支えてくださったすべてのステークホルダーの皆さまに対して深く感謝いたします。

## 「真に価値」ある企業グループを目指して

金融危機以前の水準に業績が回復したものの、当社グループを取り巻く環境変化は想像を超えるスピードで起こっており、企業間の競争は一段と厳しさを増しています。この状況のなか、このたび社長に就任した池田を中心とする新たな執行体制のもと、住友ゴムグループは、次の100年に向けて住友ゴムの伝統を継承し、さらに成長の軌道を高め、社会に期待され信頼される「真に価値」のある企業グループを目指してまいります。

今後とも当社グループへのご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。